

# S 大型複合施設「キラメキテラス」に急性

## pecial Report & Talks ~鹿児島市の30年後を 地域医療最前線



医療法人玉昌会

キラメキテラス  
ヘルスケアホスピタル



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

いまきいれ総合病院

鹿児島市高麗町43番

鹿児島市高麗町の広大な交通局跡地に誕生した大型複合施設「キラメキテラス」。そこに急性期医療を担う「いまきいれ総合病院(350床)」が2021年1月に開院すると、翌2月には、そのすぐ隣に回復期・慢性期から在宅医療まで網羅した「キラメキテラスヘルスケアホスピタル(179床)」が開院し注目を浴びました。経営母体が異なる2つの新病院がほとんど同時に出現しただけでも驚きですが、この両病院は、お互いの2階フロアーが空中廊下で連結した画期的な構造をしているといいます。これほどまでに強い連携体制を構築するに至った経緯と今後の展望をぜひ聞かせて頂きたいと、両法人の理事長にお願いし、福岡からのリモート・インタビューが実現しました。

### 《 特別対談 》

### 【リモート・インタビュー】両法人理事長に聞く、新病院にかける思い



今給黎 和幸 理事長



高田 昌実 理事長



■2021年6月18日 Web会議システムを通じて取材に応じて頂く両理事長。

（「30年後の鹿児島への贈り物」を  
コンセプトに再開発プロジェクトが始動！）

——新病院の開院おめでとうございます。鹿児島市の交通局跡地の再開発に関しては、異なる2つの病院が移転するという一方で、鹿児島市民だけでなく、全国

# 期と慢性期を担う2病院が隣接し新築移転！ 見据えヘルスケアと防災をテーマに街づくりが始まる～

の医療関係者の間でも大いに話題になっていますが、そもそもこの開発計画に関わることになった経緯からお聞かせください。

高田理事長「私たち玉昌会は、最初からこのプロジェクトにかかわっていましたので、まずは、私の方からお話しいたします。約6年前の2015年7月に鹿児島市交通局から再開発計画の話があったのが発端です。さっそく三菱地所をコンサルタントに迎え検討を重ねた結果、総合社の南国殖産が幹事会社となり、回復期・慢性期から在宅医療・介護まで担当する玉昌会とは別に、高度急性期医療の機能を持つ昭和会にも参加頂くことが決まりました。さらにはスポーツジムを展開する株式会社ロックスも加えた4法人で共同事業体を組む方向で話が進んでいきましたが、協議の過程で、ロックスが辞退したために、残る3法人で共同事業体を組むことになりました。

全体のコンセプトは、『30年後の鹿児島への贈り物』です。これは計画を始めたのが2015年でしたので、その30年後ということで2040年代を意識しました。ご存じの通り、厚労省は少子高齢化により65歳以上の高齢者の人口がピークになるという2040年をにらみ、いろいろな施策を打ち出していますが、私たちも5年前から2040年の鹿児島において、全ての世代に必要とされる医療機能を当たり前のように持っていたいという思いを込めて『30年後』を目標に掲げました。そしてここに集結する複合施設群を総称し『キラメキテラス』と命名しました。再開発事業のコンペでは、このキラメキテラス構想を掲げて第一次審査を最高得点で突破した後、土地購入の入札においても、優先交渉権を獲得することに成功し、開発がスタートしたというのが全体の経緯です。」

（キラメキテラスは、鹿児島版CCRC（生涯活躍のまち）のモデルケースに発展の予感！）

——キラメキテラス、夢のあるとても良い命名だと思います。両法人どちらも移転先を探していた状況の中で、鹿児島の未来を見据えた思いが共鳴し、同一敷地内への移転となったわけですね。

今給黎理事長「そうですね。私たち（昭和会）も、この話を頂く前から、（旧）今給黎総合病院を移転できるような土地がないか探していました。とはいえ、450床の総合病院

が移転できる土地は限られます。公共用地等の大型物件を探していましたが、候補地はいくつか見つかったものの、なかなか成約まで至らずにいました。そんな時に高田理事長からこの再開発プロジェクトへの加入のお誘いを受けました。高田理事長と腹を割ってお話しするうちに、私たち昭和会も同様に、未来を見据えたこの街づくりの一翼を担えたらと思い、移転を決断しました。そしてコンソーシアム会議を通してスマートシティ等の概念を参考に、皆でアイデアを出し合い煮詰めていった結果、私たちの新病院が果たすべき役割も含め、このキラメキテラス構想の全体像が固まっていきました。」

高田理事長「玉昌会の場合は、実は2018年が創業60周年に当たることから、その記念事業として始良市にある加治木温泉病院も含め、2病院を建て替えるという計画を立てていました。その当時は、加治木温泉病院を先に建て替える予定でしたが、このキラメキテラス構想が浮かび上がってきたために、堀江町にある（旧）高田病院を先に新築移転することに方針転換したという背景もあります。

キラメキテラスは、市電武之橋駅前に約2.5haもの広大な敷地を有しています。2つの病院のほかには、スーパー等の店舗が入居するサービス系施設に加え、スポーツクラブや温泉施設、それに分譲マンション、シェアトンホテルの建設も予定しています。さらにはライフライン確保のためにエネルギーセンターを設置したり、大型駐車場も確保していますので、まさにひとつの独立した町がここに出現するという提案になりました。」

——こうしてお話をうかがっていると、高田理事長は町づくりに対してとても造詣が深いように見受けられますが。

高田理事長「玉昌会は、高田病院に始まり複数の医療機関、介護・福祉関連施設を展開していますが、国が提唱する地方創生の施策であるCCRC（Continuing Care Retirement Community：生涯活躍のまち）という考え方に共感しながら進めてきました。実を言うと、始良地区においても、加治木温泉病院を建て替えるためにジョイタウン構想というものを持っています。すでにここと同じような構想を作り上げていましたから、キラメキテラスにおいても同様の考え方を持ってきたというのが本当のところですよ。」

## （病院間の連携で、治療から回復期・慢性期を経て在宅に至るまでシームレスに医療を届けたい）

——このキラメキテラス構想の場合は、2つの別法人の病院が隣り合わせになるわけですが、昭和会として今後どのような形の連携を考えていますか？

今給黎理事長「先ほども申しましたように、元は単独で土地を探していましたが、縁あってこのモデルケースとなる町づくりに関わっていくことになりましたので、当院の強みを発揮し、しっかりと役割を果たしていければと考えています。国は医療に対して機能分担による効率化を求めています。両病院の機能が良い形で連携できれば、医療の効率化、ひいては医療費の軽減にも繋がっていくのではないかと考えています。その一番分かりやすい例は、建物同士を渡り廊下で繋いだということです。建物が繋がるだけでも利便性が全く違いますし、何より手術からその後のフォローまで、治療の連続性の面でも効率化が図れると思っています。また、コンソーシアム会議の中では、2つの病院間において相乗効果が見込めるようなことは、できることから順次行っていこうということで一致しています。たとえば、両法人の職員健診や院内研修などは共同で開催することもできますし、少し考えただけでもメリットは沢山あります。今はまだ難しいかもしれませんが、法的な面がクリアできれば、電子カルテ等も統一して、データの共有化も進めていければと考えています。」



■いままいい総合病院(向かって右)とキラメキテラスヘルスクエアスピタル(左)の2階に設置された空中廊下…治療から療養へシームレスに移行できる

——この連携は、地域医療連携推進法人という形で進めていく予定はありますか？

今給黎理事長「そこまでは考えていません。それぞれの強みを活かしながらというところで、やわらかな統合を目指しています。我々だけでなく地域の開業医の先生方も巻き込んで、地域包括ケアシステムの一員として街づくりに貢献していこうというイメージです。」

高田理事長「外からみると地域医療連携推進法人ではないかと思われませんが、私としてもそれぞれの法人は独立した形でいた方が良いのではないかと考えています。法的に縛られなくても、それぞれの良いところに向けて、お隣同士が仲良く、長いお付き合いをしていくことはできる

わけです。地域のため、ひいては社会全体のためになることは、積極的に連携していきたいと思っています。」

## （急性期に特化した、新・いままいい総合病院は、医療連携の強化と災害に強い病院を目指す！）

——考えてみれば、共同事業体を組んでいるわけですから、何も地域医療連携推進法人である必要はなさそうですね。ここでそれぞれ新築に当たったの特徴、注力したことなどお聞かせください。

今給黎理事長「旧病院は、下竜尾町にある450床の総合病院でしたが、すべての病床を持っていくことができず、回復期機能100床を残し、急性期病床350床を新病院に移転させましたので、新病院は、急性期に特化した病院となりました。そういう意味では、今まで実現できていなかった生産性の向上を図る絶好の機会になります。また、これまでの旧病院では、増築を繰り返したことで、動線が複雑になってしまい、職員満足度も十分とは言えませんでした。こうした反省のもと、職員が働きやすい環境を整えるために、まずは、風通しの良い職場づくりを目標に掲げました。具体的には、医療はチーム医療ということを示すために、医局と事務局等を一つのフロアーにまとめました。医局内に地域医療連携センターを設置し、院内での連携を強化するなど、医局と他部門とのコミュニケーションを密にして、チーム医療で生産性を上げていこうということです。また、昼食時などに利用してもらえるように、旧病院にはなかった職員専用のラウンジを設置するなど、職員のエンゲージメント向上に努めています。

外来に関しては、以前の病院では、断らない医療をコンセプトに掲げて、どんな患者さんでも診ますというスタンスでしたが、今回、急性期に特化するために、紹介外来用にフリーアドレス式の診察室を設け、臨機応変に診療科を割り振れる仕組みを導入しました。このようにスペースを有効活用し時代のニーズに合わせて対応できるような外来に変えました。

そして、これは、キラメキテラス全体に言えることですが、災害に強い病院を目指したということです。近くを甲突川が流れているため、1階の床高は6mの高さですべて統一しました。私たち鹿児島市民は、1993年に起きた8.6水害では、市街地全域が浸水してしまったという苦い経験がありますし、その後も集中豪雨が年々激しくなっていますので、防災に力を入れた町づくりが大切になっています。付近の住民の方々の避難場所にもなれるように行政と契約を交わり提携しています。

キラメキテラスは、冒頭に高田理事長からお話が合ったように、将来的な人口減少・少子化に対して、雇用創出、定住人口の促進のためにマンションを併設したり、希薄に

なりつつある地域のコミュニティを盛り上げるために多世代の人たちが集えるような場所を提供していきたいということで進んでいます。私たち昭和会も将来構想含めて、玉昌会と共同して挑戦していきたいと思っています。」



## （未来の病棟のあり方を示す「ゼロ動線病棟」は、働き方改革と感染症対策にも有効！）

——今給黎理事長から力強いお言葉がありました  
が、玉昌会の新病院「キラメキテラスヘルスケアホスピタル」についてもこだわった点など特徴をお聞かせください。

**高田理事長**「今、今給黎理事長から新しい病院についてお話がありましたように、いまきいれ総合病院は高度急性期を担う病院です。最新鋭の大型医療機器類は全て設置されていますので、事前に協議し、全面的な医療機器の共同利用を打ち出しました。そのおかげで、キラメキテラスヘルスケアホスピタルは、一切、大型医療機器を設置する必要がなくなり、別のところに重点投資することができました。私たちの病院は一貫して、回復期、慢性期、そして在宅までを担当する病院を目指しています。回復期・慢性期の在院日数は30～100日だと思っていますので、医療機器の整備よりもアメニティを重視することがメインになります。そこで新病院のコンセプトは『100日を通して、やさしく包まれる病院』と表現しました。

長期入院の患者さんやお見舞いに来られるご家族のことを考えると、やはり居心地に配慮することはとても大事です。そのため私たちは、病室の外側に縁側廊下という名前で外の景色が楽しめるテラスのような開放的な廊下をつくりました。そしてそれと並行して、病棟間の中央には、職員専用の廊下を配置しました。患者さんや来院者は外の縁側廊下、職員は中の廊下を通るために、動線が変わることがなくなります。これを我々は『ゼロ動線病棟』と呼んでいます。

この病棟は病院部門で初めて、建築物として意匠登録されました。私はこの病棟こそ未来の病棟になると思っています。普通の病棟は廊下が中央にあり、両側に病室が配置されていますが、その両外側にもう一本廊下があるという構造です。外側が縁側廊下であり、中央はスタッフルームという概念ですね。病室にはその両側にドアがあり、常駐するスタッフと患者さんや家族との動線が交差することはありませんので、緊急時の対応もスムーズに行え

ます。加えて感染症への対応にもなります。動線が分かれたことによって、効率的な働き方ができるようになるのではないかと考えています。それは2024年からスタートする、医療関係者の働き方改革（2035年目標）まで意識しています。これを達成しないと未来はないだろうと考えています。このように働き方改革と感染防止の両方に対応できる体制を考えることはとても大事なことです。

また、建物面積は旧高田病院より1.5倍になりました。患者さんとスタッフの密閉、密接、密集の3密も避けるための十分なソーシャルディスタンスが確保できていると考えています。換気量が厚労省の基準の1.5倍なども実現したほか、病室の8割は個室と2人部屋で占めています。特別室では、声をかけるだけで照明スイッチのオンオフや明るさの調整ができるスマートスピーカーの設置や、セキュリティ対策としてエレベーターに乗る際にホテル等でみかける入室カードの仕組みを導入するなど、きめ細かな工夫を施しました。

医療の面にも目を向けると、リハビリテーション機能の強化を図るため、鹿児島大学病院と連携し、リハビリ用ロボットの導入等にも取り組んでいます。地域共生社会に向けて障がいのある子供たちのために小児リハビリテーションにも注力していきます。これはいまきいれ総合病院が力を入れておられる周産期・小児医療との連携という観点からも大事だと思っています。

それと、今給黎理事長もおっしゃってましたが、このキラメキテラスヘルスケアホスピタルも、災害時には透析患者の避難場所に指定されています。高度急性期医療に対応できるいまきいれ総合病院と連結した当院が透析患者の拠り所となるわけですので、こんなに安全で安心できるエリアは他にはないと確信しています。」

## （ヘルスケア産業を軸に、未病・予防まで含めた新しい医療のあり方を追求していきたい）

——話を聞けば聞くほど壮大な構想ですね。日本で少子高齢化による人口減少に困っている自治体はいたるところにあると思いますので、このキラメキテラス構想が2040年に向けたモデルケースとして広く全国

に波及していくと良いですね。最後に今後に向けた展望などお聞かせください。

今給黎理事長「キラメキテラスとして打ち出したいところは、ヘルスケア産業を軸にした新しい町の創生というところに尽きます。今回、南国殖産という総合商社と一緒に開発していますので、生活者をターゲットにした医療関連サービスの充実化も図っていきたいですね。ヘルスケアの分野で言えば、当院に通っている患者さんの基本的な診療データ（脈拍とか血圧とか）はアプリ等で自己管理できる時代になっています。将来的には、異常があるとすぐに気がつき、早期治療に結びつくような仕組みが当たり前になると思っていますので、ヘルスケア産業に生かせるような仕組みを構築できれば良いと考えています。そういうプラットフォームを目指していきたいですね。

昭和会としては正直言って、当初はここまでの構想は考えていませんでしたが、幸いこの共同事業体に加えて頂いたことで、改めて自分の病院のことだけでなく、社会の仕組みの中で貢献できるものにしていききたいと思っています。そういう意味でもこの構想は何としても成功させたいし、そのためには、地域住民はもとより、周辺の開業医の先生方など全ての関係者をいかに巻き込んでいけるかがキーになると考えていますので、新しいいまきいれ総合病院の存在を広くアピールしていきたいと思っています。」

高田理事長「鹿児島県最大の商社・南国殖産が私たちのチームリーダーでもありますので、マンションを建てたり、シェラトンホテルを開設しますが、今給黎理事長と、このマンションに医療・介護サービスをどのような形で提供する

かを話し合っているところです。具体的なことまでは決まっていますが、いずれ共同開発していくことになります。ヘルスケアをテーマにした町づくりが今後どのような形になるのか、私自身もとても楽しみにしています。

医療が分かる人にキラメキテラス構想の話をするれば、急性期医療から慢性期・在宅まで一貫通貫で提供できる医療機関が隣接しているという、この医療環境にはびっくりされると思います。しかも2階同士が渡り廊下で連結しているというのは、とてもインパクトのあることです。

そして、この構想を支える主役はやはり人材です。高度な知識と技量を持ち、常識も兼ね備えた人材の育成が大事です。両病院を合わせると、高度な専門知識を持った物凄い数のエキスパートたちが集結しています。ぜひ両病院が共同して、人材育成に取り組んでいけるように話を進めていきたいと思っています。

また、近年は『治す医療から、治し支える医療』に概念が変わりました。もっと言えば、我々医療者は、未病・予防に取り組みなければいけないと考えています。そこには、『病気が治った後に、また病気にならないでくださいね。再入院はしないでくださいね。』という思いがあります。『健康のために運動する習慣をつけたい』と思えば、キラメキテラスにはスポーツクラブもあります。そうやって健康維持を意識することもできるし、様々な分野のエキスパートに会えるわけですから、健康について学ぼうと思えば、こんなに良い環境はほかにはないと思います。ぜひ鹿児島県の皆さんに活用していただきたいと思っています。」

## 《 特別インタビュー 》

### いまきいれ総合病院で、鹿児島県の民間病院初のダビンチによる肺がん手術を実施!

両理事長のインタビュー終了の直後、その日の午前中にダビンチを用いた肺がんの手術が行われ、無事終了したというニュースが飛び込んできました。しかも肺がん手術をダビンチで行うのは、鹿児島県の民間病院では初めてのこと、さっそく手術を終えたばかりの徳石先生にお

願い、今後の抱負等を語っていただきました。

「2021年4月に福岡大学病院から赴任した徳石です。私は鹿児島県出身ですので、故郷の医療に貢献できる機会に恵まれたことに大変感謝致しております。私はこれまで大分県、福岡県で呼吸器外科の研鑽を積み、一昨年は



■2021年6月18日午前に行われたダビンチによる肺がん手術の実際の様子と、手術を終えた午後インタビューに答える徳石先生



いまきいれ総合病院・  
呼吸器外科部長  
徳石 恵太 医師・談

更なる成長を求めてドイツへ留学しました。留学先では気管・気管支形成や血管形成、肺移植などの手技を学び、ダビンチに接する機会はあまりありませんでしたが、帰国後、多くのロボット支援下手術の経験を持つ福岡大学病院の佐藤寿彦教授の指導を受け、研鑽を重ねることができました。

呼吸器外科領域におけるロボット支援下手術は開胸手術と比較すると低侵襲ですが、胸腔鏡手術と比べると、患者さんが得られる利益は変わりないと言われています。しかし、術者は術野を3Dで拡大して見ることができ、鉗子

の動きが精緻で術者の意図する通りに動いてくれますので、術者は疲れにくく、長い時間集中力を持続させることができます。特に縫合にはその威力を発揮し、気管支を切って繋げる気管支形成術などにはとても有効です。ダビンチが使われ出して10年ほどになりますが、ロボット手術は習熟さえすれば、個人差がなくなり、誰でも同じレベルの手術ができるようになる可能性があります。このような未来を見据えてダビンチ手術を更に発展させ、より多くの皆様がその恩恵を受けられるように努めていきたいです。」

### 一病院概要一

#### 公益社団法人昭会和 いまきいれ総合病院

理事長：今給黎 和幸 院長：濱崎 秀一

所在地：〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号

標榜診療科：内科、糖尿病内科、血液内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、新生児内科、頭頸部・耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科(30診療科)

許可病床数・種別：350床 高度急性期病床29床(HCU8床、NICU9床・GCU12床)、急性期病床321床

#### 〈注力している医療〉

- ①救急医療：救急総合診療科への挑戦と全診療科オンコール診療体制との融合による24時間365日の救急要請受け入れ拡大。県下離島における救急患者の受け入れ。
- ②がん医療：地域がん診療拠点病院としての高度ながん医療の提供。手術や化学療法、放射線治療、緩和医療など専門的かつ幅広い治療の実施。
- ③周産期医療：地域周産期母子医療センターとして鹿児島市立病院(総合周産期母子医療センター)と鹿児島大学病院との連携による鹿児島県の周産期医療のさらなる充実。



■救急車とドクターヘリ



■手術前カンファレンス



■ダビンチ設置手術室



■NICU (他にGCU、新生児フォローアップセンター等設置)

### 一病院概要一

#### 医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

所在地：〒890-0051 鹿児島市高麗町43番30号

理事長：高田昌実

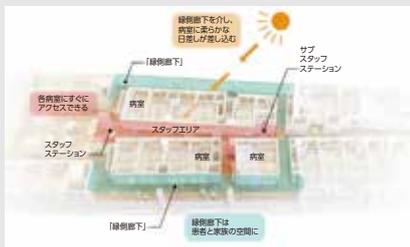
院長：萩原 隆二

標榜診療科：内科、腎臓内科、肝臓内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、泌尿器科、皮膚科、リハビリテーション科

許可病床数・種別：179床 療養病床入院基本料1【内訳】療養病床 109床、地域包括ケア病床 35床、回復期病床 35床

#### 〈3つの特徴〉

- ①“縁側廊下”のある新しい概念の病棟スタイル
- ②スタッフのゼロ動線による“近くにある医療サービス”病棟  
…「ゼロ動線病棟(縁側廊下含む)」病院部門で初めて建築物の意匠登録(第1672637号)を獲得!
- ③世代を超えていきいきと生涯かがやく街“キラメキテラス”との共存



■ゼロ動線病棟の中央は、スタッフステーションという位置づけ



■縁側廊下…見舞客との面会ロビーにもなる

